

事業所名

新ひだか児童養育相談センター

支援プログラム

作成日

7年

1月

8日

法人（事業所）理念		○自立し、いきいきと暮らせる地域づくり ○地域が一体となって支え合う地域づくり					
支援方針		1. 発達支援…①こどもの「今」ととらえ、一人ひとりの育ちを支える。②子供の主体性を育む。 2. 家族支援…①家族への心理的なサポート。②保護者同士の相互作用。 3. 地域連携…①関係機関との連携。②こどもが育つ上での地域づくり。					
営業時間		8時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	あり なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	通園児の健康状態（発熱・風邪症状の有無）は、家庭と連携を取り確認する。登園時に玄関先での検温と手洗いをを行う。保護者から通園児について何らかの疾患等が疑われる相談を受けた場合は、該当する医療機関の紹介を行う。疾患等を持つ通園児については、介助方法・対応については専門医療機関の指示等を元にし家族と共通理解を図る。通園児についての生活上の身辺自立や家庭での対応等は、家族と協議し適切な支援方法・介助器具等を検討する。					
	運動・感覚	通園児の状態像に合わせて、必要な運動経験・感覚入力の方が設けられるように、運動器具・遊具の準備や運動獲得に向けてのデモンストレーションや運動介助を行う。感覚過敏をもつ通園児に対しては、各感覚の過敏と鈍麻を確認し、必要な感覚経験をえられるように設定する。またその際には、苦手な感覚・嫌な感覚を踏まえ、無理強い等にはならないように配慮する。					
	認知・行動	各通園児の認知特性や物事のわかり方・捉え方を検討した上で、本人達にとって分かりやすい方法を用いる・提示する。また、必要な支援方法や支援グッズについても検討し、各自に合ったものを作成する。各通園児の認知面での得意・不得意も把握した上で、得意な面を生かし不得意な面を補う、または不得意な面をサポートして参加につなげるようにする。発達年齢に応じた適切な行動を身につけられるように、具体的な行動の伝達やモデルの提示による理解の促進を図る。また、館内の環境設定として物品の整理や分かりやすい配置を心がける					
	言語 コミュニケーション	各通園児の発達段階や獲得しているコミュニケーション段階に合わせて、各自の解る方法・伝わる方法を検討する。特に幼児期においては、言語につながる前段階の関わりを丁寧に行い、共感語やサイン言語・身振り・絵カード等も用いてコミュニケーションの促進を図る。学齢期においては、他者との適切なコミュニケーションの方法等を確認し、各自の状況に合わせた必要なコミュニケーション方法の伝達やモデル提示による獲得を図る。					
	人間関係 社会性	各通園児の対人関係の持ち方や関わり方の傾向（安心感・不安感・緊張感等）は把握し、人と安心して過ごせる・安心して関われることを保障する。緊張感の強い子ども・動きが多い子ども等それぞれ個性が異なるので、距離感・人の数・声かけの仕方等、その子にあった対応を検討する。子どもと職員の関わり・関係性の構築だけでなく、保護者と子どもの関係性の構築を重視する。学齢期になり対人面での悩みが出てきた際には、状況や場面の確認を行い、よりよい方法の検討や具体策の提案を行う。					
家族支援		通園同伴時の相談だけでなく、個別での相談も随時受け通園児の状況に合わせて、具体的な対応方法を提案する。きょうだい児についても、相談・対応について受け入れる。			移行支援		幼児期の保育所・幼稚園への情報伝達・園訪問を行い、各園での担当者がその子のことを把握できるようにする。小学校入学時・入学後もその子の特徴について伝達し、担任が状況を把握できるようにする。
地域支援・地域連携		通園児の通っている保育所・幼稚園・学校に対して、学校訪問による情報共有や支援会議による対応協議等を行う。また、関係する福祉関係機関とも連携し、情報共有を図りながらその子を支援する。			職員の質の向上		・年間計画に基づく内部研修の実施 ・必要な支援技術等の外部研修への参加
主な行事等		・夏の行事（園庭での縁日） ・ご家庭で楽しめる冬の動画配信					